

「計画」

大津市立平野小学校

令和 8 年度 我が校の学び力向上策

【県目標】第Ⅲ期学び力向上滋賀プラン

夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学び力を高める。

【令和 8 年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ

- 発達の段階を踏まえた言語活動の充実
- 1人1台端末等の効果的な活用
- 自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】

第4期大津市教育振興基本計画

「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」を実践する。

【学校の目標】

- かがやけ笑顔 心ときめき小学校
- か 考える子ども が がんばる子ども や やさしい子ども け げんきな子ども

【現状と課題】

- 視点1 (1) 多くの児童が知識豊富で全国学力調査でも力を発揮している。一方、相手の気持ちを思いやり、コミュニケーションをうまくとるなどの「読み解く力」の側面においては、弱さが見られる。また、与えられた課題に対しては進んで取り組むが、自ら課題を見つけて主体的に取り組む姿はあまり見られない。
- (2) 情報活用能力指導計画、アプリ別到達目標、情報モラル年間計画を基に各学年が系統立てて指導に取り組んでいる。低学年は使用頻度が低い。中・高学年は一人一台端末でmeta_mojiを中心に学習を進められている。全体的にタイピング力も高い。
- 視点2 ペアやグループ学習など、友だちと協力して学習を進めるスタイルに馴染み、気兼ねなく話す力のある児童が多い。しかし、一部の児童に任せてしまい、友だちと関わり合いながら学習を進める力は弱い。
- 視点3 職員全体で研究の方針を確認し、授業を考える際は学年部で考え、系統性を意識している。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例) 県学びのアンケート(児童生徒)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」 **肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり

取組事項	評価指標
①授業を単元でとらえ、児童の学びの見取りから、授業の再構築を繰り返し、全ての子に学びを実感させる授業づくりを目指す。また、学年の発達段階に合わせた個別最適な学びを取り入れる。	①期間ごとの児童や教職員へのアンケートの検証 肯定的な回答90%以上
②iPad等のICT機器を活用し、一人一人の児童の学習状況や課題を把握し、適切な声掛けを行う。	②授業研究会による相互評価 肯定的な回答90%以上

【視点2】学びを支え合う集団づくり

取組事項	評価指標
①自ら学習形態を選ぶ中で、ペアやグループ、クラス全体で関わり合いながら、学習を進める。友だちのよさを見つけ、お互いに認め合える楽しさが味わえる機会を多くつくる。	①期間ごとの児童や教職員へのアンケートの検証 肯定的な回答90%以上
②安心して自分の力や思いを出せる支持的風土を構築し、児童一人一人が自己肯定感がもてる学級・学年をめざす。	

【視点3】協働して取り組む学校づくり

取組事項	評価指標
①「個別最適な学び」を窓口にして研究を進めていくが、見る視点・考える視点を絞って、授業改善や評価を教職員全体で行っていく。授業研究以外にも様々な研修やOJTを積極的に進める。	①コミュニティスクールや保護者アンケート・教職員アンケートのすべての評価の平均値 肯定的な回答90%以上
②コミュニティスクールのよさを活かし、地域や保護者と連携を深め、子どもたちのよりよい成長につなげる取り組みを行う	

◇「学び力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

◇4月当初に校内研究全体会を行い、本年度の研究の方向性について説明し、疑問点などを教職員全体で交流した。また、市の指導主事に「個別最適な学び」の授業実践についての講話をしていただいた。それを受けて、各学年が研究授業を行い、研究主任は学年毎の授業づくりにも携わる。研究授業及び検討会終了後、各学年から研究通信を発行し、振り返りをする。最後に、年2回を目安に教職員・児童アンケートをとり、本年度の反省と来年度の研究の方向性について検討を行う。なお、日程は以下の通りである。

5/27 藤の木 6/24 6年 9/11 4年 10/28 3年 11/18 1年 1/27 5年 2/10 2年